

先生！夏休みには土器を焼こう ついでに焼いた土器で赤米を炊こう

小学校の先生方、夏休みは子どもたちと一緒に土器を焼いてみませんか。大昔と同じ「野焼き」ではありませんが、この方法を使うと比較的簡単に土器を焼くことができます。フロムM紙上では紙面の都合上、簡単にしかご紹介できませんが、私にご連絡くだされば、ノウハウをお教えします。また野焼きをしたいとお考えなら別途ご相談に応じます。

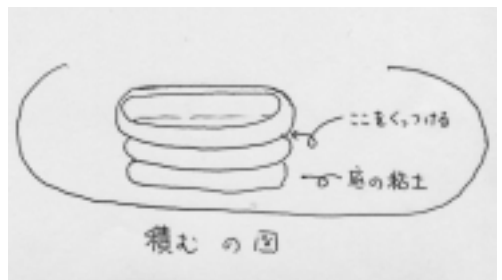
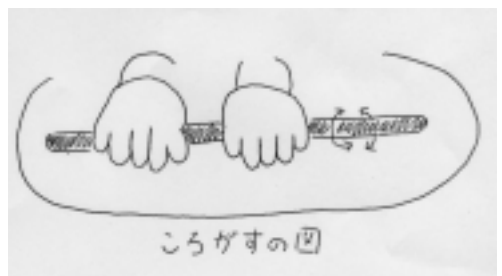
それでは今回はごはんを炊くということで、日本で米が安定して作られ始めた弥生時代後期の土器を作ってみましょう。

それではまず、粘土を用意します。陶芸用の安い粘土で十分です。私は遺跡の調査で掘り出したらない粘土を使います。遺跡の土は鉄分が多くて良い色に焼けるんですよ。

ロクロを用意します。無ければ厚紙でも可能です。粘土をつかみ、お団子状に丸め、ロクロ(厚紙)の上に置き、平らにつぶします。厚さは5mm～1cmくらい。これが土器の底になります。また、粘土をつかみ取り、両手で転がしてひも状にします(ころがすの図参照)。それを平らにつぶした粘土の縁の上に置きます。まずはそれらをくっつけて下さい。ぶ厚いお皿みたいなものができます。そこへまた、ひも状の粘土を巻き上げていってください(積むの図参照)。これが土器の器壁になります。

整形方法は省略しますが、一つの土器を3分割で1.腰から下 2.腰から上 3.口縁部と分けて作ってゆくと整形しやすいと思います。

こうしてできた土器はまだまだ完成ではありません。土器の形を整え、器壁を薄くするために、これから「タタキ」という技法を取り入れたいと思います(右図参照)。といってもそんなに難しいことをするわけではありません。土器をそっとひっくり返し、回転させながら、刻み目を入れた板でペンペン叩い



てゆきます。もし今度近所の博物館へ出かけることがあったら、じっくりと観察してみてください。弥生時代後期の土器(甕)にはこのタタキが施され、左下がりの縞模様になっています。それがタタキの痕です。

そして、少し土器が乾燥してきたら、土器の内面をつるつるの物でこすります。昔は石でやっていたようですが、今回はスプーンでしちゃいましょう。スプーンだと出っ張ったいたらない所も削りやすいからです。そして内側磨きが後で重要な役割を果たします。これを行うことによって、土器内面の粘土の密度を高め、水漏れをおこしにくくするのです。

これで第一段階は終了です。夏場は2日ほど風通しの良いところで陰干しをして、表面が乾燥したら、屋外に出して、完全に乾燥させます。だいたい1週間くらいしたら大丈夫かな？

次に土器を焼く準備をします。今回は最も簡単にできる方法を紹介します。用意する物はキャンプ用品コーナーで打っている七輪と、炭、園芸用品の素焼きの植木鉢(七輪と同じ口径の物)です。これらはどこのホームセンターでも売っていますので、比較的安価で購入できます。

つまり、今回は昔と同じ野焼きで焼くわけではなく、簡易な窯を作って焼くのです。最近は野焼きはいろいろな問題があって、なかなかできませんからね。

この後、炭を七輪に入れ、土器を乗せ、植木鉢をかぶせて焼成します。火加減にもノウハウがあるのですが、紙面の都合上割愛させていただきます。注意としては絶対に生乾きの状態で火の中に入れてください。爆発を起こして飛び散ります。そして、急加熱も避けて下さい。同じく爆発を起こします。

あとは、完成した土器でご飯を炊くのですが、古代米の「赤米」を炊きたいと思います。意外と購入は近所のお米屋さんで取り寄せてできます。炊飯方法は別途でお話したいと思います。

こんな感じで簡単に土器が焼け、他のことにも転用可能な窯で、今年の夏は有志をつのって弥生土器を焼いてみませんか。そして古代の米を炊いてみましょう。案外ふつうにやけるもんですよ。道具も5～6人分なら貸し出し可能です(連絡は郷土史資料室 TEL:0724-23-9688 山岡まで)。

(山岡邦章 郷土史資料室)

樹木から始めてみよう

人間が初めて出会うときに、「初めまして、村上健太郎です、よろしくおねがいします」と自己紹介をするように、植物との出会いも名前を知ることから始まる。しかし、植物にはどういうわけか無愛想な輩が多く、自分から自己紹介してくれる連中はいない。美しい色で自己主張する花の季節というのはとても短く、パッと目を見開いてこっちを見てくれたかと思いきや、またすぐにそっぽを向いてしまうのである。

一方、僕のように街中に育ち、テレビっ子だった人間の多くは、自然は美しい～、自然は素晴らしい～、自然は大切～、自然は神秘そのもの・・・ということをしてテレビ番組に教えられてきた。美しいビビッドカラーのチョウや、木生シダの茂る今にも恐竜の出てきそうな熱帯雨林。なんて自然ってすばらしいの！見たことのない珍しい生き物がクローズアップされて、丁寧に名前を字幕で教えてくれる。テレビで紹介される自然は、とても愛想がいいのである。

環境科学をやりたいと、大学院で理系に転じた私が最初に面食したのは、植物の愛想のなさだった。テレビが紹介している愛嬌たっぷりの自然とのギャップには驚いた。とりあえず種類も多く、外来種だらけの草本植物は後回しにして、種類もやや少なく、そうそう見逃すことのない木本植物をすることになったが、彼らの愛想のなさといったら、なかなかヒドい。

図鑑を繰って調べ、昨日エノキだったはずの巨木は、今日見てみたらなんとなくムクノキに見えてきた。・・・あれ？でも、やっぱりエノキ？？

—そんなある日。

「先生、これってシラカシですか？」

「そう、シラカシ。」

「これもシラカシ？」

「それはナナミノキ。」

「でも、こっちはシラカシでしょ？」

「それウラジロガシ。」

「・・・。」

—別の日。

「ふん、どこにでもによきによき生えやがって、
(なんて名前か知らんが)、この草め！」

「村上くん、それ木よ、アカメガシワっていうのよ」

「ま、まさか・・・？これも木とか・・・？」

「それ、クサギ。」

「・・・やっぱり、木？」

はい、調査やりなおし—

そんな日々が続いた。愛想のない人間は嫌いではない。自分もそうだから。でも、植物は・・・。

樹木を見分ける手がかりになるのは、何と言っても葉っぱである。花や実がついていれば、それらはもちろん重要な見分けるポイントになる。しかし、それでも葉っぱにこだわるのは、1年のうち最も長い期間つけてくれる植物の大切な形質だからである。枝のつき方、鋸歯(葉のへりのギザギザ)、葉脈など、真冬を除けば年中わかるものを手がかりになかまわけをしていく。

最近、葉によって調べていく検索形式の図鑑にも、お手軽で便利なものが出ている。

例えば、

・ 尼川大録・長田武正・『検索入門 樹木』、『検索入門 樹木』・保育社

・ 馬場多久男・『葉でわかる樹木 625種の検索』・信濃毎日新聞社

など。フィールドに持ち歩いても重くない本なので、現地で名前を調べながら、じっくり観察することができる。押し葉標本を作って、家で調べるのにもいい図鑑である。

最初は、愛想なしの彼らとのつきあいは大変だが、お友達が増えてくると、なかなか楽しくなってくる。岸和田の低地～丘陵地の森の場合、50種も覚えれば、そこら中の木がお友達である。和泉葛城山へ上がると、もう少し数は増える。それでも、100種覚えれば、もうほとんどが顔なじみのはずである。ここまですればもう、お友達にもなりたくない上司とつまらない酒を飲むよりは、ずっと気楽で素敵なおつきあいができるはずだ。

3年前、愛想なしの樹木たちが大嫌いだった僕が、今とりくんでいるのはシダ植物。彼らの愛想なし具合といったら、樹木の比ではない。なんてったって、1年中いつ見たって花をつけない連中なんだから。でも、今僕は、彼らのことは嫌いではない。テレビの映像ではなく、自分で作った本物のシダの標本を手にして思うのである。やっぱり自然は神秘そのもの。

岸和田の低地～丘陵地の二次林に見られる代表的な樹木 51 種(ツル性木本植物は除く)

常緑樹：コジイ・ナナミノキ・クスノキ・カクレミノ・タラヨウ・ヤマモモ・アラカシ・シラカシ・ヤブツバキ・クロガネモチ・モチノキ・ネズミモチ・サカキ・ヒサカキ・クロバイ・ソヨゴ・アラカシ・シラカシ・シャシャンボ・ビワ・アオキ・イヌツゲ・マンリョウ・ヤブコウジ・アカマツ・イヌマキ

落葉樹：エノキ・ケヤキ・ムクノキ・アキニレ・コナラ・クヌギ・ヤマザクラ・ウワミズザクラ・コシアブラ・タカノツメ・アカメガシワ・センダン・カキ・アカメヤナギ・カマツカ・タラノキ・ヤマウルシ・ハゼノキ・ネジキ・ヤマハゼ・ヌルデ・クサギ・イヌビワ・ウスノキ・ナツハゼ

(村上健太郎 自然資料館)



↑ ムクノキの葉

↑ エノキの葉

○ ● INFORMATION ● ○

きしわだ自然資料館 8 月の行事予定 スクリーンで自然観察 8 月号

身近な自然から、大自然まで、スクリーンをとおして自然観察してみませんか？

日時：8/11・8/18

場所：自然資料館 1 階ホール

料金：無料（ただし 2 階、3 階の見学は有料）

● 8 月 11 日（土）

11：00 と 14：00 2 回上映

昭和 33 年の牛滝川と、周辺の自然環境（白黒約 30 分）を撮影したビデオです。当時の和泉葛城山から大津川河口までの貴重な映像です。

● 8 月 18 日（土）

11：00 「ニホンザル母の愛」

14：00 「魚が空を飛んだよ」

岸和田の漁港たんけん隊

今年も恒例の、岸和田の漁港たんけんを行います。大阪湾にはどんな魚がいるのか、漁港をたんけんしながら、見に行きませんか？

日時：8 月 19 日（日）午後 1 時～4 時（荒天中止）

場所：地蔵浜町岸和田漁港

定員：小学生以上 30 名（申込多数の場合は抽選・小学生は保護者同伴のこと）

費用：ひとり 100 円（保険代）

講師：日下部敬之氏（府立水産試験場研究員）
ほか当館スタッフ

申込：往復はがきかメールで、参加者全員の〒住所・氏名・年齢（学年）・電話番号を記入し、8 月 10 日（必着）までにきしわだ自然資料館「岸和田漁港」係まで。

記入漏れ、小学生未満の参加者がある場合は、失格とさせていただきます。

自由研究大相談会

自然資料館では、自由研究で分からなかったことについて、調べるための方法を見つけたり、専門家に教えてもらったりできる、自由研究大相談会を開催いたします。自分でここまではできたんだけど、あとが分からないという方や、どうしても名前がわからない標本がある方は、もしどしお越し下さい。

日程：8 月 22 日（水）中央公園管理事務所 2F

8 月 26 日（日）山直図書館（山直図書館と共催）

8 月 29 日（水）きしわだ自然資料館 1 階ホール

時間：いずれも 13：30～17：00（受付は 13：00～16：30、当日受付で先着順です）

専門家にたずねることができる分野：植物・昆虫・貝類・岩石・化石・両生爬虫類・鳥類など。
* 物理・科学分野には専門家がいませんので、ご了承ください。

持ち物：自由研究で作った標本や、撮った写真、まとめたものなど。飼育生物以外のなまものや、腐ったもの、カビなどの持ち込みは禁止します。

郷土資料館からのお知らせ

郷土資料館では現在、館蔵品展『近世の甲冑展』を開催しております。9 月 30 日までの開催となっておりますので、ぜひぜひお越しください。

お問い合わせ：郷土資料館（TEL：0724-31-3251）

お願い [from M] は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。担当の方は忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email: knature2@sensyu.ne.jp

k-nature@sensyu.ne.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.sensyu.ne.jp/k-nature/>

index.html （Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力すれば、カンタンです）